

# 地域からのニュースと提言

## 千葉 提言

### 万引き防止、声掛けが有効

#### 日本保安

##### 代表取締役社長 青柳秀夫氏



青柳代表取締役社長

顔認証システムで対策  
当社「日本保安」(千葉市)は、トスネット(仙台市、佐藤康廣会長)グループの一員で、主に私服警備員による店内保安警備を行っている。万引きは、青少年が悪質な犯罪に手を染める入口となる「ゲートウェイ犯罪」と言われ、未然防止、啓発活動が重要だ。また、超高齢社会を反映して60代、70代の高齢者による万引きが増加しており、その件数は未成年を上回って

いる。一方、外国人の窃盗グループによる大胆な犯行も起こる。グループは前もって店舗の状況を調べておき、見張り役、実行犯など役割分担して、短時間で大量の商品を盗んでいく。同じグループが、1日に複数の店舗を回って犯行を重ねる場合もある。盗品の換金は、インターネットのオークションで転売されるケースが増えた。万引きは深刻な社会問題で、より一層の防止対策が求められる。近年の防止対策の1つに「顔認証カメラを活用した情報共有」がある。これは、防犯カメラで撮影した「万引き犯とみられる人物の画像を、同じエリアにある同業者の店舗が顔認証システムに登録しておき、その人物が来店した

場合には警備員や店舗の従業員が重点的に警戒すること。万引きの未然防止を図る仕組みである。東京・渋谷にある3つの大型書店は、今年7月から「渋谷書店万引き対策共同プロジェクト」として、情報共有をスタートした。共有される画像は個人情報であり、適切な管理が不可欠となる。ICT(情報通信技術)などの普及に伴い、店内保安の警備員は、各種の機器やシステムと連携した行動を求められる時代を迎えている。

万引きの被害者などに対する実態調査によると、万引きをあきらめる要因は、店舗の従業員による挨拶などの「声掛け」が6割以上を占める。防犯カメラや防犯ゲートなど

に警戒するなど、地道な取り組みが欠かせない。店舗は万引きのほか、スリ、置き引き、盗撮などが起こりうる。店内保安警備は専門のノウハウに加えて、さまざまな状況や相手に対応する能力が求められる。実務に則した警備員教育の一層の充実を図る時である。

「店舗守る」誇り持つ  
人材育成で大切なのは、自社の企業理念や存在意義について、社員にしっかりと認識してもらおうかと思う。当社の理念は「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、企業の発展、社会の安全安心に貢献する」というものだ。店舗の安全を守って社会に貢献していることを社員それぞれが自覚し誇りを持ち、各種のスキルアップに取り組みしてほしいと考える。スキルアップの1つに心肺蘇生法がある。以前、当社の女性警備員が商業施設で高齢男性の万引きを発見し、店外に出たところで声を掛けて同行を求めた際、男性は意識を失って倒れた。女性警備員が胸骨圧迫を行ってAEDを使用した。心肺停止状態だった男性は命をとりとめた。こうした事例を社員全員で共有して緊急時に的確な行動が取れるように訓練を重ねている。また、トスネットグループは、地域社会への貢献活動として、AED・心肺蘇生法の講習会を東北地方や首都圏の学校、企業、団体などで開催している。人命救助に直結する心肺蘇生法を多くの人に体験していただきたいと願う。先日、当社大学生を対象にインターネットを開いた際に、カリキュラムの中で心肺蘇生法を行った。学生たちは熱心に取り組み、生活安全産業である警備業の大切さを感じてくれたようである。長期的な展望を持ち、社会から一層信頼される企業を目指すグループ企業の一員として、今後も店内保安警備に取り組み人材を育成していきたい。

## 愛媛 登下校の安全確保へ

### 警察と合同で防犯教室

愛媛総合警備保障(松山市、二宮義晴社長)は9月20日、八幡浜警察署(白瀬直樹署長)と合同の防犯教室を愛媛県八幡浜市の江戸岡小学校で開いた。1年生18人と3年生19人が不審者に対応する知識などを身につけた。

同署はこれまで、管内の小中学校などで不審者対応教室を開き、同社も「あしん教室」を、それぞれ開催してきた。通学路での安全確保に社会の関心が高まる中、県内で初めて警察と警備会社が連携し、子供たちに犯罪被害を防ぐ注意点をレクチャーした。同署生活安全課長と交番勤務の警察官3人が1年生に

対応などを説明した。続いて、同社の担当者が不審者役に扮し、声を掛けられた児童は自分で判断し、大声を出して逃げる体験型の授業を行った。また、3年生は、留守番する時の注意点として「家の鍵を見せない、中に入らずに戸締まり」などを楽しみながら学んだ。

「道で知らない人に声を掛けられても、絶対についていけないようにします」などの感想が児童からあった。



防犯のポイントを体験型で学ぶ(愛媛総合警備保障提供)

## 茨城 施行規則の改正を

### 経営者研修会で説明

茨城県警備業協会(烏村宏会長)は10月1日、経営者研修会を水戸市内で開催した。茨城県警察本部・生活安全課長補佐(河野)が、茨城県警備業協会

総務課許可事務担当室の河野和司課長補佐が、警備業法施行規則の改正について説明を行った。県内の警備業の概況についても解説し、コンプライアンスの徹底による適正業務の推進を呼び掛けた。協会の鴨志田聡副会長・業務委員会委員長(東関東警備

保障)は「今回の改正により教育時間が短縮されて、教育担当者の負担軽減につながる面はあるが、警備員の質が低下するようではあってはならない。一層の業務サービス向上を図ってほしい」と強調した。

研修会には、例年より多い50社、80人の経営者や幹部などが参加し、関心の高さがかがわれた。参加者は「今後自社の教育時間を減らすこととなく、警備の質を高めていきたい」と話していた。



茨城県警備業協会(烏村宏会長)は10月1日、経営者研修会を水戸市内で開催した。

## 東京 25周年社員感謝祭

### 家族も招き、ねぎらおう

【報告】シンコーハイウェイサービス

シンコーハイウェイサービス(東京都八王子市、坂本健造社長)は9月16日、八王子市内のホテルで「創立25周年社員感謝祭」を開催した。同社は、高速道路の交通規制業務を行う会社として1994(平成6)年7月1日に創立。首都圏を中心に、札幌から名古屋まで30以上の拠点

を持つ企業グループに成長してきた。会社の周年行事は、今回初めて、関係者を招いての式典形式ではなく、ともに頑張ってきた社員と、その家族をねぎらおうとの趣旨で「社員感謝祭」として行った。坂本社長は、25年の歩みを振り返りつつ、社員の尽力を



社員をねぎらう感謝祭(シンコーハイウェイサービス提供)

読んで感謝の言葉を述べた。260人の参加者は、八王子

迅速さ、的確さ競う  
消防訓練審査会でV  
【報告】東邦警備保障

東邦警備保障(東京都目黒区、若林隆社長)の「恵比寿ガードンブレイス隊」の片山周平氏、池田龍氏、佐藤祐司氏が9月12日、東京都渋谷区内で開催された「自衛消防訓練審査会」警備A隊の部いで優勝に輝いた。渋谷消防署管内の事業所から9つの隊が出場。地震による施設内での火災を想定し、出場者は19番通報、屋内消火栓による初期消火、避難誘導など一連の動きの迅速さ、的確さを競った。柳田政広隊長は「契約先のご支援と、出場者の訓練のためにシフトを調整してくれた隊員の協力で優勝できました」と述べた。



左から佐藤氏、池田氏、片山氏(東邦警備保障提供)

## 群馬 災害対応力を高める

### 地震想定、支援隊が訓練

群馬県警備業協会(山崎松恵会長)は10月2日、22回目の「災害支援隊訓練」を伊勢崎市内で開催し、80人が参加した。

訓練は、直下型地震が発生して伊勢崎市内に甚大な被害があり、県警本部長から群馬警協に災害時の協定に基づく出動要請があった」との想定で行われた。吉田恵一隊長(ALSOK群馬)と隊員は、大旗・紅白旗による交通誘導、負傷者の搬送、AEDを使う心肺蘇生法、初期消火などの技能向上に取り組んだ。山崎会長は、関東地方を襲った台風15号の被害に触れ、「災害発生時の頻度は年々高まっており、『災害対応力』の強化を図らなければならぬ。日頃から防災関連の情報に関心を高め、生活安全産業の担い手として努力を重ねてほしい」と隊員を激励した。



訓練の1コマ、胸骨圧迫(群馬警備保障提供)

信頼される安心を、社会へ。

# セコムは、次へ。

1964年に開催された、東京オリンピック。その選手村の警備を担当したのは、私たちセコムでした。当時はまだセコムにとって創成期でしたが、この大会で社会から高い評価と信頼をいただき、現在に至っております。あの日と変わらぬ思いを胸に、セコムは東京2020大会の「安全・安心」に貢献します。あらゆる感動の瞬間に、確かな「安全・安心」を。2020年のTOKYO、そしてその先の未来へ。

東京2020 オフィシャルパートナー (セキュリティサービス&プランニング)

「安全・安心」でも、感動を。

セコム 検索
0120-025756 (24時間・年中無休)
セコム株式会社